

# 昭和の名脚本家 戯曲に

## 「お菓子放浪記」西村滋さん長女制作

「お菓子放浪記」で知られる作家、故西村滋さんの長女で静岡市在住のニシモトマキさん(五七)が、映画の黄金期である昭和三十年代に活躍した脚本家、故白坂依志夫さんの人生を描いた戯曲を制作した。演劇ユニット「チーム・クレセント」が六月に東京で上演する。主宰する片山美穂さん(五〇)は「西村さんの遺志を生かすため、戦争の記憶を引き継ぐ作品にしたい」と意気込む。



ニシモトマキさん

白坂さんは三島由紀夫や寺山修司らと交流があり、仲代達矢さん主演の「野獣死すべし」(一九五九年)など多くの名作を手掛けた。市川崑総監督の「東京オリンピック」(六五年)の共同脚本にも名前を連ねた。

ニシモトさんは高校まで沼津市で生活し、結婚後は東京に住んでアニメのシナリオやラジオドラマなどを書いてきた。白坂さんの脚本教室で学び、二〇一五年に亡くなるまで晩年の身の世話をしたという。

今回の戯曲「夢の果(はた)に挑む」は白坂さんから聞いた映画作りの裏話や、人間関係を題材としたフィクションだ。父の西村滋さんは約三十



稽古を重ねる出演者たち(東京都大田区)

## 来月、東京の劇団上演

年間を沼津市で暮らし、一九九三年に静岡市に移った。自伝的小説「お菓子放浪記」は青少年読書感想文全国コンクールの課題図書になり、映画やテレビドラマになった。

片山さんは、戦争孤児をテーマに書き続けた西村作品にほれこんで、同作品をミュージカル化して上演を重ねてきた。

ニシモトさんは片山さんと話す中で、白坂さんの父親の戦前の体験を語る場面を当初案に追加。片山さんは「平和や非戦といった西村さんの思いを作品の中で継承することができた」と話す。

演出は「ミュージカル・はだしのゲン」の脚本・演出で知られる木島恭さんが務める。上演は六月六〜十日、西村滋作品も上映してきた東京都杉並区の「ラピュタ阿佐ヶ谷」の地下にある小劇場「ザムザ阿佐ヶ谷」で。○チーム・クレセント  
070(6470)0384